

平成24年度 町政執行方針

平成24年第1回定例会の開会にあたり、町政執行の所信の一端と予算編成上の施策の概要を申し上げ、町議会議員の皆さん及び町民の皆さんのご理解とご協力をお願い申し上げます。

昨年の町長選挙において、町民の皆様への暖かいご支援を賜り引き続き町政の重責を担わせていただくことになりました。

今後とも、先人達が築き上げてくれたふるさと京極を、より「安心な住みよい名水の郷」にすべく皆さんとともに力を合わせ各種事業に取り組んでまいります。

地方自治体の予算は、政府予算及び地方財政計画をもとに編成しているところであります。

政府は、昨年12月24日の臨時閣議で一般会計総額が6年振りに前年度を下回る90兆3千300億円となる平成24年度予算案を決定いたしました。

歳入では、税収が1兆5千億円増の42兆3千億円と回復したが、新規国債の発行額は44兆2千億円となり、当初予算ベースで3年連続、借金が

税収を上回る異例の状況となったところでです。

歳出では、政策的経費が51兆8千億円、そのうち2年連続で大幅に削減された公共事業費は、4千億円減の4兆6千億円と引き続き厳しい状況になりました。一方社会保障費は、2兆3千億円減の26兆4千億円、地方交付税交付金等は、16兆6千億円となっております。

平成24年度の地方財政につきましては、地方の一般財源総額について前年度と同水準の59兆6千億円を確保されており、特に地方交付税につきましては、経常収支分17兆5千億円と昨年度に比して1千億円増額確保されているところでございます。

本町における、平成24年度予算案は一般会計で36億9千752万3千円と前年比8・8パーセント増、特別会計を含めた合計額では、47億4千082万5千円と前年比7・2パーセント増となりました。

一般会計の歳入では、地方交付税17億2千124万7千円と前年並みを見込みましたが、歳入不足を補うため町債を5億5千870万円計上

いたしました。

歳出の主なものとして、宅地造成費、教員住宅建設工事費、学校給食センター建設工事費、診療所等改修工事に伴う診療所会計への繰り出し金、終末処理場改築更新工事に伴う下水道特別会計への繰り出し金などを予算計上いたしました。

そのほか、農林業・商工業の振興、住民福祉の充実、社会公共施設整備、教育施設整備の充実など各般にわたる事業の優先順位を勘案しつつ、予算編成を行ったところでございます。これまで、町の医療を担ってまいりました国保病院につきましては、国保病院のあり方検討委員会の答申を尊重し、本年4月から19床の有床診療所として運営してまいります。この地域で安心して暮らし続けるために、介護・保健・福祉・教育と連携し生活に寄り添う医療を目指してまいります。

今年は、昭和37年5月1日に町制施行が認められてから50年になります。特に、記念式典は行いませんが、行事等を通じてこのことを周知してまいります。

以下、主な内容について申し上げます。

総務・企画関係

■職員研修の充実

地方自治が大きな変革期を迎えようとしている中で、これからのまちづくりを進めるにあたっては、職員一人ひとりが前例にとらわれず新たな発想と手法でそれぞれの課題に取り組むことが必要です。

このため、職員の研修機会の拡充と研修の充実を図り、職員の資質を向上させるとともに、住民のニーズを的確にとらえ、求められる住民サービスに応えていくための能力を備えた人材の育成に積極的に努めてまいります。

主な研修として、北海道との相互交流職員研修を引き続き実施し円滑な地方行政の推進等職員の行政能力の向上を図るとともに、北海道市町村職員研修センター研修及び北海道市町村振興協会研修に取り組み、高度の専門知識等に基づく的確な業務

処理の向上と、効率的な行財政運営や広い視野をもつ職員の養成に努めます。

また、職場内研修に取り組み、組織の活性化と職務遂行に必要な知識・技能等の習得に努めてまいります。

■広報広聴活動

昨年の「まちづくり懇談会」では、町内各地域の方々から貴重なご意見・ご要望をいただきました。町広報の2月号に主な項目を掲載しておりますが、できる限り町民のご期待に添うよう努力してまいりたいと考えております。また、国や道に関係する要望事項等につきましても積極的に要請活動をしてまいります。

広報広聴活動につきましては、毎月発行しております「広報きょうこく」の紙面を通じて情報を発信し、町政に対する関心が高まるよう努めてまいります。

また、まちの予算や財政状況をお知らせする「今年のまちづくり予算」につきましては、わかりやすい内容で作成するように心がけ、早期に配布できるよう努めてまいります。

「第四次京極町総合計画」は平成23年度で計画期間が終了することから、今後10年間のまちづくりの方向性を

示した「第五次京極町総合計画」の策定を今定例会で提案いたしました。

「活力湧き出る みどり美しい水のまち」を基本理念に掲げ、それに基づくまちづくりを推進するため、各分野の基本目標を定めております。今後、町の現状や取り巻く社会情勢を勘案しながら、目指す姿の実現に向けて効果的なまちづくりを推進してまいります。

■情報通信

地域情報化につきましては、光通信網の整備が昨年完了したことにより、全ての地域で高速通信回線が利用可能な環境となりました。また、併せて整備した地上デジタル放送の再送信事業につきましては、昨年7月からサービスを開始し、現在約650戸の加入となっております。

今後は、光通信網を有効活用したサービスの提供を検討してまいります。

■交通安全・防犯

交通事故のない安全で住みよい町を目指し、今後とも交通安全啓発活動を通じて交通安全意識の高揚に努め、平成16年1月22日から続いている交通事故死ゼロの継続を目指してまい



ります。

防犯対策につきましては、児童の登下校における安全を確保するために、毎月15日を「防犯パトロール強化の日」とし、町内のご協力を得ながら防犯ベストを着用した見守り・声掛け活動と、青色回転灯を装着した防犯パトロール車による啓発活動を実施しているところであります。

今後、これら自主防犯活動への支援体制の充実など地域や関係機関との連携により、町民が安全で安心して暮らすことができるよう防犯活動の推進に努めてまいります。

■商工振興

企業の業績不振や国内消費の低迷など、依然として景気回復の兆しが見えず、本町の商工業にとっても厳しい状況が続いております。

このような状況のなか、商工会など関係機関との連携を図り、中小企業の経営安定化に向けた情報提供や相談業務等に努めてまいりますとともに、設備資金及び運転資金の融資に伴う利子助成を昨年度に引き続き実施してまいります。

商業振興として、町内消費の拡大を目的としたプレミアム商品券発行事業などの商工会事業に加え、三条通りのイルミネーション設置や冬まつりといった三条通り商店会の事業に対しても支援をしてまいります。さらには、三条通り歩道のバリアフリー化など買い物利用者に配慮した環境整備事業の早期実施に向け、北海道との協議を進めてまいります。

観光振興とも関連しますが、商工会など関係機関と連携を図り、特産品の開発に向けた取り組みも進めてまいります。

■観光振興

昨年1年間のふぎだし公園の入り込み数は約60万人となっております。一